

III 調査結果のあらまし

第 51 回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割強であった。

(2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が5割半ばで最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が3割強で最も高く、次いで「街に活気がないところ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」、「交通渋滞の多さ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が6割半ばで最も高く、「手に入れていない」は2割強であった。

(1-1) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「健康・福祉・国保・年金」が4割強で最も高く、次いで「暮らし・住まい・環境・安全・交通」、「各施設の催し物（宇都宮美術館、市文化会館、ろまんちっく村、図書館など）」、「特集（市の重点事業）」、「文化・教養・スポーツ」、「情報カレンダー（市のイベントカレンダー）」と続いている。

(1-2) アプリを利用した関連情報閲覧状況

アプリを利用した関連情報閲覧状況については、「利用したことはない」が8割半ばであった。

(2) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

「広報うつのみや」以外の12種類の広報媒体については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は「インターネット（宇都宮市ホームページ）」が4割弱で最も高く、次いで「暮らしの便利帳」であった。

(3) ホームページを見るための主な手段

ホームページを見るための主な手段については、「スマートフォン」が5割で最も高く、次いで「パソコン」が約4割であった。

(3-1) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについては、「大分類（暮らし・教育文化・観光イベント・事業者・市政）」が7割弱で最も高く、次いで「便利ショートカット（イベントカレンダー、申請書、バス、ごみなど）」が約3割であった。

(3-2) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】は7割強であった。

(3-3) 広報紙やホームページで充実してほしい情報や機能

- 情報(子育て, 災害, 各種イベント, 求人, LRT 等)の充実
- 見やすさ, 分かりやすさ(デザインや配色, ジャンル分け 等) 等

3. ごみステーションへのごみの排出状況について

(1) 「消費期限」・「賞味期限」の認知度

「消費期限」・「賞味期限」の認知度については、「それぞれの違いを説明できる」が8割弱であった。

(2) 賞味期限切れ等の未開封の食品を捨てる頻度

賞味期限切れ等の未開封の食品を捨てる頻度については、「ほとんど捨てない」が4割半ばで最も高く、次いで「月1回程度」が2割強であった。

4. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地へ出かける頻度

中心市街地へ出かける頻度については、「月1~2回程度」が3割半ばで最も高く、次いで「年に数回程度」が3割弱であった。

(2) 中心市街地へ出かける目的

中心市街地へ出かける目的, またはどのような魅力があったら中心市街地へ出かけるかについては、「買い物」が6割半ばで最も高く、次いで「飲食」が3割半ばであった。

(3) 中心市街地をより魅力づけるために充実が必要なもの

中心市街地をより魅力づけるために充実が必要なものについては、「文化・芸術」が約5割で最も高く、次いで「商業」が4割半ばであった。

5. 生物多様性について

(1) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「聞いたことはあるが, 意味は知らない」が約4割で最も高く、次いで「言葉も意味も知っている」が3割強であった。

(2) 外来種が及ぼす影響に関する認知度

外来種が及ぼす影響に関する認知度については、「知っている」が6割半ばで最も高く、次いで「聞いたことはあるが, 具体的な影響はわからない」が約3割であった。

(3) 生物多様性保全に係る活動への参加意向

生物多様性保全に係る活動への参加意向については、「関心がない」が約4割で最も高く、次いで「関心はあるが, 時間がなくて参加できない」が3割強であった。

6. いちご一会とちぎ国体について

(1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

栃木県で国体が開催されることの認知度については、「知っている」が6割強を占めており、一方で「知らない」が4割弱であった。

(2) とちぎ国体へボランティアとしての参加意向

とちぎ国体へボランティアとしての参加意向については、「あまりそう思わない」と「全く思わない」を合わせた【思わない(計)】が約7割であった。

(3) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「観光情報を発信する市の魅力紹介」が約5割で最も高く、次いで「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」、「会場周辺をきれいにする環境美化活動」が続いており、それぞれ4割を超えている。

7. 大谷地域の振興について

(1) 大谷地域への来訪経験の有無

大谷地域への来訪経験の有無については、「行ったことがある」が8割強であった。一方で「行ったことがない」が1割半ばであった。

(2) 大谷地域への来訪頻度

大谷地域への来訪頻度については、「ほとんど行かない」が7割弱で最も高く、次いで「ときどき行く」が約3割であった。

(3) 大谷地域への来訪目的

大谷地域への来訪目的について、「観光」が5割弱で最も高く、次いで「散策」、「遊び・レクリエーション」と続いている。

(4) 大谷地域への来訪手段

大谷地域への来訪手段については、「自家用車」が約9割であった。

(5) 大谷地域内での移動手段

大谷地域内での移動手段については、「自家用車」が8割半ばで最も高く、次いで「徒歩」が約1割であった。

(6) 大谷地域の振興に向けて必要だと思う取組

大谷地域の振興に向けて必要だと思う取組については、「快適な空間・交通環境の整備(歩いて楽しめる空間づくり, 楽しく移動できる手段の確保など)」が3割弱で最も高く、次いで「大谷らしいまち・景観づくり(空き家・空き地の活用, 大谷石建造物の保存・活用など)」が2割半ばであった。

8. うつのみや産の農畜産物について

(1) 「うつのみや産」の農畜産物の購入意向

「うつのみや産」の農畜産物の購入意向については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【思う（計）】が約8割であった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」が30.0%、「そう思う」が58.0%で、これらを合わせた【思う（計）】が9割弱であった。

9. 日常生活における防災に関する意識や行動について

(1) 災害への備えに関する認識

災害への備えに関する認識については、「重要だと思うが、日常生活の中でできる範囲で取り組んでいる」が5割弱で最も高く、次いで「重要だと思うが、災害への備えはほとんど取り組んでいない」が4割半ばであった。

(2) 災害発生時の情報入手方法

災害発生時の情報入手方法については、「テレビ」が約9割で最も高く、次いで「ラジオ」が3割弱であった。

10. 自治会について

(1) 自治会への加入状況

自治会への加入状況については、「加入している」が約8割を占めており、一方で「加入していない」が約2割であった。

(2) 自治会へ加入したきっかけ

自治会へ加入したきっかけについては、「昔から入っていてきっかけは無い」が5割弱で最も高く、次いで「自らの申込み」が2割半ば、「自治会長や班長からの勧め」が1割半ばであった。

(3) 自治会へ加入していない理由

自治会へ加入していない理由については、「マンション・アパート等の集合住宅である」が7割弱で最も高く、次いで「加入を勧められていない」が3割強であった。

(4) 住みよい暮らしのため、自治会は今後どのようになればよいと思うか

住みよい暮らしのため、自治会は今後どのようになればよいと思うかについては、「現状維持で良い」が3割弱（26.8%）で最も高く、次いで「自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する」が2割半ば（26.1%）と拮抗した結果であった。

1 1. 住宅用火災警報器について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の自宅への設置状況については、【「住宅用火災警報器」または「自動火災報知設備」が設置されている】が合わせて7割半ばであった。一方、「どちらも設置されていない」が2割半ばであった。

(2) 「住宅用火災警報器等」の点検実施状況

「住宅用火災警報器等」の点検実施状況については、「未実施」が4割強で、次いで「半年または1年の間で実施した」が4割弱、「今後点検を行う予定でいる」が2割弱であった。

(3) 「住宅用火災警報器等」を設置していない理由

「住宅用火災警報器等」を設置していない理由については、「どのくらい効果があるのかわからない」が5割で、「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が約2割であった。

1 2. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護に費やした時間については、それぞれ「0時間以上7時間未満」が最も高く、約3割から約4割であった。

(2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が5割半ばで最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」と続いている。

(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に、配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「経済的圧迫」、「性的強要」は「まったくない」は7割以上であった。「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた【経験あり(計)】は、「心理的攻撃」が最も高く、1割弱であった。

(4) LGBT (エルジービーティ) の認知度

LGBT (エルジービーティ) の認知度については、「言葉も意味も知っている」が6割半ばで最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがあるが、意味はわからない」が約2割であった。

13. 宇都宮市森林公園とアクティビティ ニーズについて

(1) 宇都宮市森林公園への来訪頻度

宇都宮市森林公園への来訪頻度については、「数年に1回程度」が4割強で最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが行ったことがない」、「年に1回～数回程度」と続いている。

(2) 宇都宮市森林公園への来訪目的

宇都宮市森林公園への来訪目的については、「公園内の散策」が約7割で最も高く、次いで「登山・ハイキング」、「ジャパンカップサイクルードレースの観戦」と続いている。

(3) 森林公園にある施設や設備の改善すべき点

森林公園にある施設や設備の改善すべき点については、「トイレ」が2割強で最も高く、次いで「通路、林道、トリムコース」、「駐車場」と続いている。

(4) 興味のあるアクティビティ

興味のあるアクティビティについては、「グランピングや上質なキャンプ」が約3割で最も高く、次いで「登山体験・低山ハイク」が3割弱、「カヌー、スタンドアップパドルなど水上アクティビティ」が約2割と続いている。

14. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度については、「知っていた」、「知らなかった」とともに約5割で、「知っていた」が51.4%、「知らなかった」が48.6%と拮抗した結果であった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】は約7割であった。一方、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた【感じない(計)】は2割半ばであった。

15. 敬老事業について

(1) 「敬老」にふさわしい年齢

「敬老」にふさわしい年齢については、「70歳以上」が4割弱で最も高く、次いで「75歳以上」、「80歳以上」と続いている。

(2) 敬老の年齢になったときに、市からお祝いしてもらいたいのか

敬老の年齢になったときに、市からお祝いしてもらいたいのかについては、「祝ってほしい」が約4割で最も高く、次いで「その必要はない」が4割弱であった。

(3) 敬老のお祝いの内容

敬老のお祝いの内容については、「祝金贈呈」が8割弱で最も高く、次いで「記念品贈呈」が約4割であった。

16. まちづくり活動への参加意識について

(1) 「まちづくり活動」への参加意向

「まちづくり活動」への参加意向については、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が3割半ばで最も高く、次いで「現在、参加している」、「参加したいとは思わない」と続いている。

(2) 参加している、または興味があるまちづくり活動

参加している、または興味があるまちづくり活動については、「特になし」が2割半ばで最も高く、次いで「地域の清掃活動」、「子ども会や育成会活動」と続いている。

(3) まちづくり活動への参加のきっかけ

まちづくり活動への参加のきっかけは何だったか、またはどのようなきっかけがあれば参加すると思うかについては、「友人・知人からの誘い」が4割強で最も高く、次いで「特になし」が約3割であった。

(4) まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

「まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「人をサポートするほど余裕がない」が4割強で最も高く、次いで「参加する事に興味や関心がない」が2割強であった。

17. 特別支援教育について

(1) 「発達障がい」の認知度

「発達障がい」の認知度については、「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている(計)】は6割半ばであった。一方、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」と「聞いたこともなく、内容もわからない」を合わせた【わからない(計)】は3割強であった。

(2) 「特別支援教育」の認知度

「特別支援教育」の認知度については、「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている(計)】は4割半ばであった。一方、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」と「聞いたこともなく、内容もわからない」を合わせた【わからない(計)】は5割半ばであった。

18. マイナンバーカードを活用した電子申請の利用について

(1) マイナンバーカードを活用した電子申請(行政手続き)の利用意向

マイナンバーカードを活用した電子申請(行政手続き)の利用意向については、「利用したいと思う」と「どちらかという利用したいと思う」を合わせた【利用したいと思う(計)】は4割強であった。一方、「どちらかという利用したくないと思う」と「利用したくないと思う」を合わせた【利用したくないと思う(計)】は4割弱であった。

(2) マイナンバーを活用した電子申請(行政手続き)で利用したいと思うサービス

マイナンバーを活用した電子申請(行政手続き)で利用したいと思うサービスについては、「住民異動・出生手続・住民票等」が約7割で最も高く、次いで「税申告等」、「医療費の助成等」と続いている。

(3) マイナンバーカードを活用した電子申請(行政手続き)を利用したくない理由

マイナンバーカードを活用した電子申請(行政手続き)を利用したくない理由については、「マイナンバーカードを所有する理由が現時点で特になし」と「パソコンやスマートフォンを持っていない、または、操作に不慣れである」がそれぞれ2割半ばであった。

<MEMO>